

オーストラリアの旅 (10)

花尾省吾

オーストラリアの乳牛は日本と違い数多い種類が飼われている。シドニーで開かれた全豪共進会出品乳用牛を挙げるとジャージー種、イラワラショートホーン。エアシャー。ガンジー乳用ショートホーン。レッドポール。ホルスタイン種等が出されており、このうち最も多く飼われているのがジャージーとイラワラショートホーンである。

乳牛の飼育は年中放牧でいたる所に牧柵をめぐらし、牧柵は4段位に鉄線を引っ張り最下部に金網を張っているもの、又最上部が木材のもの、バラ線のもの等がある。日本のように牛舎はもっていない。従って分娩が近づいたからといって、分娩室に入れることなく野外でお産をすませる。10月から4月にかけて雨らしい雨も降らぬし気候的に心配はいらない。しかし冬の間は天候がよくないので着物を被ってやる。



人口授精台ウェルビー農事試験場

牧場の大きさは種々で一般に海岸よりの牧場は小さく奥に入る程広い面積をもっている。100~200エーカー程度が普通だが、ビクトリア州で見たキングスベール牧場は565エーカー、南オーストラリア海岸地帯カストン氏の牧場150エーカー。シドニー西部35マイルの地キャムデンにある牧場は1万エーカーの面積をもっていた。種付はウェルビーにあるビクトリア州の試験場では4,000軒の農家を対象に人工授精を行っ

ていたが、一般には各牧場毎に種牡牛を飼っており、自然交配を行う。種付時期は夏の終りから冬にかけて行うのが普通で、分娩が春から夏にかけて青草の多い時をねらっている。

牧場経営者の中にスタッド牧場があり、長い歴史をもち純粋種を飼うブリーダーで、優秀な牝牛、牡牛を飼っており又州の共進会全豪共進会等に出陳するといったのがあるが。一般の牧場は雑種牛が多く飼れ、実用本位であり、日本程純粋種にあこがれていない。緑の草原を利用して経済的な飼い方をし、脂肪を生産することにこれ努めているのが大多数である。飼っている牛の毛色も、まちまちである。繫れている頭数は70~80から200~300頭位である。

『豪州の草』シドニー郊外一帯は夏の終りであったがはてしない緑の草原が続いており、ユーカリ樹の披蔭樹が適當の間隔に植えられている。しかしビクトリア、南オーストラリア両州では灌漑水を施している草地だけは青々としていたが、その他の草地は色あせた枯草地となっていた。放牧地の草は永年生のものを混播しており、牧草の種類はコックスフット（オーチャード）白又は赤クローバー。ペレニアルライグラス。プライヤー。パーパロン。チモシー等が播かれている。南オーストラリアの乾燥地での牧草の中、パラリスチュベローザー（千本科）は根が深く上に入り、草丈もよく伸び又乾燥に堪える強い草でこの地帯に適する草として推奨していた。乾草は小麦、燕麦、ルーサンを主体としており、その耕地面積下の通り。

(1950~51年)

干草の耕地面積 137万7,000エーカー

干草 6.9%

計 360万1,000エーカー

青草面積 222万4,000エーカー

青草 11.2%

計 18.1%

燕麦 44.2%

小麦 25.2%

ルーサン 10.4%

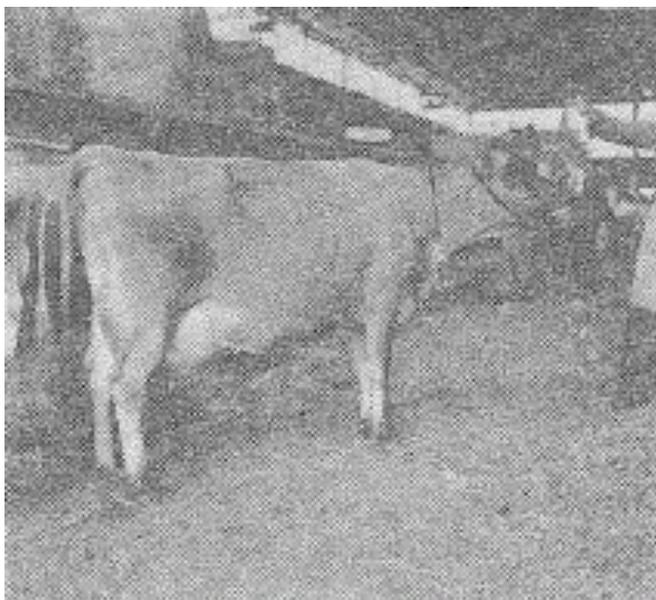
岡山畜産便り1957.04

その他 20.4%

計 100.0%

干草は農作物の中で重要な地位を占めていて夏の乾燥と暑熱で牧草が枯れた時とか冬牧草の成長が衰えた時に青草の不足分を補うために与えられる。広大な土地が牧畜に適し又牧草栽培に適しているうえ、この干草作りの発達が重要な役を果しているといえる。牧場の土地が悪くよい干草のできぬところでは可成の遠隔の地からルーサンの干草を購入しており放牧地のあちらこちらにばらまいて採食させていた。

ルーサンは小麦、燕麦と同様に作物として取扱い特に管理、灌水を行い夏の枯草時期でも緑のルーサン草地をつくっている。小麦、燕麦は穀物として値段がよければ成熟さし実をとり、値段が安いとか、できの悪

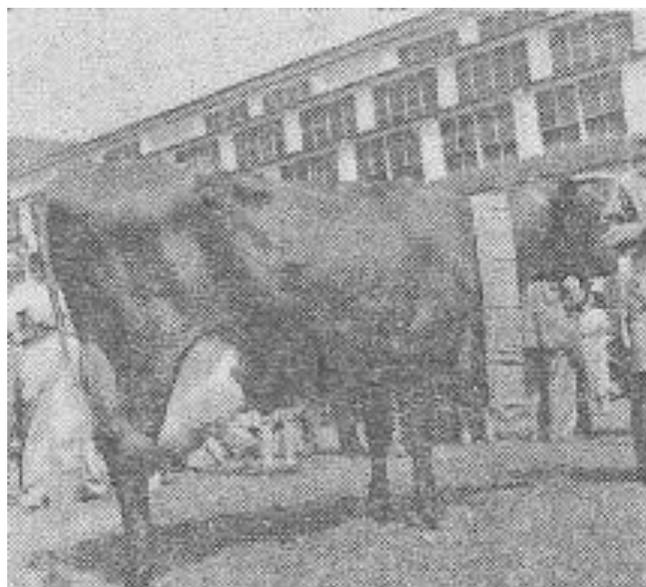


共進会代表ジャージー牛

い時に刈取って干草にしている。豪州の草は生えるのではなく種をまき、管理して育てるのである。

草は牧場にとって大切なことは言うまでもないことだが、この草を食いあらず敵に兎がいる。オーストラリアには一匹の兎もいなかったが英国から持込まれた兎が今では野兎となって大害をあたえている。兎は牧畜の「ペスト」ともいわれているし、そのために野兎柵がつくられている。最近は兎を殺すによい毒薬が用いられているようだ。牧場に立札をたて「毒薬をまいてあるから犬をはなさぬように」と書いて注意をしている。兎の害の外にカンガルー、イナゴ等が牧草を食いあらず場合もある。

オーストラリアの乳牛飼いは、草をつくり草によって養い、乳を搾るやり方である。



全豪共進会 イラワラショートホーン